

令和4年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	府中市立府中学園	校長	渡部 光昭	生徒指導主事	岡西 孝太
-----	----------	----	-------	--------	-------

取組事例名	『府中学園駅伝大会』～1年生から9年生まで襷をつなぐ～				
-------	-----------------------------	--	--	--	--

取組における育てたい資質・能力					
人間関係形成		社会参画		自己実現	
「コミュニケーション能力」	3	「主体性・協働性」	2	「自己肯定感・リーダー性」	1

取組のねらい					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・役割意識を持って自分の責任を果たすことで、児童生徒が自己肯定感を高められるようにする。</li> <li>・参加者全員が楽しんだり達成感を味わったりするために、仲間と協力したり、仲間を思いやったりすることができるようにする。</li> <li>・1～9年生で1つのチームを組むことで、学年を越えた交流を図るとともに、9年生は学園の、4・7年生はステージのリーダーとしての意識を育む。</li> </ul>					

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『学校行事で児童生徒を育てる』
<p>【大会概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1チーム18人（1～9年生混合）の30チーム対抗戦とする。</li> <li>・ステージごとの3部構成で実施する。</li> <li>①第1ステージの部（1～4年生）②第2ステージの部（5～7年生）③第3ステージの部（8～9年生）＊区間別に走る距離が違う。</li> <li>・各ステージの部の順位で獲得した得点の合計でチームの総合順位を決定する。</li> </ul> <p>【絆を深めるための具体的な取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チームミーティングで自己紹介・走順の決定・襷づくりを行った。</li> <li>・走順はステージリーダーを中心に話し合っで決定した。</li> <li>・襷にチーム全員の名前やメッセージ等を書き、駅伝大会本番はみんなの思いが込められた襷をつないだ。</li> </ul>	<p>今年度は、昨年までのコロナ禍で行事が縮小されてきたものから、4月に9年生の代表者が校長に「体育祭をやらせてください。」と直談判したことをきっかけに大きく内容を変更して行った。</p> <p><b>5月</b></p> <p>【昨年度：体育参観日（学年ごとに実施）→今年度：体育祭（全校で実施）】 運営（準備・審判等）を9年生が行った。9年の応援リーダーによる応援合戦など児童生徒主体の体育祭を行った。</p> <p><b>10月</b></p> <p>【昨年度：学習発表ウィーク（クラスごとに実施）→今年度：楽園祭（文化祭）全校で実施】 9年生が司会や他学年発表の準備など運営を行った。また、9年生クラス発表では構成・演出まで全て生徒が考えた発表を行うなど、児童生徒主体で楽園祭（文化祭）を行った。</p> <p><b>12月</b></p> <p>【昨年度：マラソン大会→今年度：全校駅伝】 1～9年生でチームを作り、チーム襷づくりや走順の話し合いをステージリーダー中心に行い、チームの絆を深めた。</p>

取組の成果と課題

アンケート項目	回答対象者	肯定的回答
自分の任された区間で全力を出すことができましたか？	1～9年生	93.1%
駅伝大会で、学年をこえたつながりを感じましたか？	1～9年生	89.4%

○全校で駅伝大会を行うことで、児童生徒に学年やステージを越えたつながりを感じさせることができた。

●ステージリーダー（4年・7年）のリーダーシップが十分に発揮できず、走順の決定で距離が長い区間を下の学年に押し付ける等の問題が発生したチームもあった。今後は、4年・7年にステージリーダーとしての自覚を持たせ、リーダー性を発揮する場面を意図的に作り鍛えていきたい。